

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 26 日作成)

委員会名	昼光利用計画 WG	主 査 名：鈴木広隆
所属本委員会 (所属運営委員会)	光環境小委員会	委員長名：井上 容子
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>昼光は、建築空間へ与える心理的影響や省エネルギーの観点から、積極的に利用されるべきものであるが、昼光による光環境を予測して設計に反映させることは容易ではなかった。また、昼光による視的快適性については不明の部分が多く、居住後に作業者の不満により制御方法の変更が必要となる場合も少なからずあった。本 WG では、昼光利用シミュレーションの普及を図ることと共に、昼光導入オフィスの視環境評価法を実用的に示し、最適な昼光利用法を提案することを目的としている。2004 年度は、ニーズに合った昼光計算システムの開発、計算結果の評価方法の確立を行うとともに、2003 年の活動成果をシンポジウムで報告し、昼光利用の普及を図る。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	鈴木広隆(主査、大阪市立大学)、岩田利枝(幹事、東海大学)、上谷芳昭(京都大学)、梅宮典子(大阪市立大学)、大井尚行(九州大学)、北谷幸恵(北海道立寒地住宅都市研究所)、古賀靖子(九州大学)、登石久美子(清水建設)、戸倉三和子(建築研究所)、野口太郎(関西大学)、原直也(関西大学)、三木保弘(国土交通省国土技術政策総合研究所)、望月悦子(東海大学)、山田浩嗣(住友林業)、吉澤望(東京理科大学) 計 15 名	
設置 WG (WG 名：目的)	昼光利用計画 WG：昼光利用シミュレーションの普及を図ることと共に、昼光導入オフィスの視環境評価法を実用的に示し、最適な昼光利用法を提案すること	
2003 年度予算	70,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	<p>2003 年度は 1 回開催した。</p> <p>(1) 3/24(3 名)</p> <p>その他、適宜インターネットを利用して情報交換を行った。</p>
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>本 WG は、傘下のオフィスの昼光利用 SWG 及び昼光シミュレーション SWG の活動よりなる。</p> <p>オフィスの昼光利用 SWG では、事例研究紹介や見学会による昼光利用のメリットデメリットの把握、主観評価とエネルギー消費量の両面からの検討に基づく窓に求められる性能及び評価に必要な項目の整理、視環境評価のための実用的な指標について検討を行った。</p> <p>昼光シミュレーション SWG では、既存の光環境計算ツールを利用した昼光計算の精度及び使いやすさの向上のためのインターフェース開発、既存光環境計算ツールを評価するためのテストケースの案を作成、昼光シミュレーションのニーズの要件整理を行った。</p> <p>委員会 HP アドレス：http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s3/dup.htm</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>当初の活動計画に忠実に活動を行うことが出来た。また、それぞれの SWG の成果を昼光照明建築国際シンポジウム(2004 年 3 月 25 日開催、東京)で報告を行い、参加した各国の研究者に成果を示すとともに、両 SWG で得られた知見を共有することが出来た。</p>
その他評価すべき事項	<p>傘下のオフィスの昼光利用 SWG が、九州大学 21 世紀 COE プログラムと共同で「昼光照明建築国際シンポジウム」(2004 年 3 月 25 日、東京)を共同開催した。</p>